

秋田きらり支援学校は肢体不自由者・病弱者である児童生徒に対する教育を主として行う特別支援学校です。

地域支援だより



平成28年11月25日

第68号

きらりNet

秋田県立秋田きらり支援学校
地域支援部

秋田県病弱教育の充実を願って

病弱教育アドバイザー 進藤 忠雄

秋田県の病弱教育を充実させることを目的として、県内病弱特別支援学級設置校（小学校11校、中学校11校）と25市町村教育委員会を訪問しました。

在籍している27名の児童生徒は、心臓疾患や糖尿病、甲状腺機能障害、脳脊髄液減少症、白血病、適応障害等々、多種多様な障害を抱えながらも、それぞれがほとんど欠席することもなく元気に登校し、楽しく学校生活を送っていました。真剣に学習に向かっている姿がとても印象的でした。これは、各学校が対象児童生徒の病気の理解に基づいて合理的配慮の提供に努めているからと考えられます。もちろん市町村教育委員会の後押しがあつてのことです。

病気療養児は、生後間もなく大きな手術を何回も受けたりつらい治療に耐えたりしてきたからこそ、学校に通学できることが嬉しく、友だちとのつながりを実感しながら勉強もがんばることができるのだろつと思ひます。「病気によって、患者となり子どもでなくなる。教育によって、患者から子どもにもどる。」という言葉があります。病気療養児にとって、学校や教師はとても大きな存在であり、毎日の学校生活は健康回復への意欲を育てることにつながっています。

一方で、病気やけがで治療や入院している児童生徒の大多数は通常の学級に在籍しているという状況があります。平成25年度の文部科学省調査では、病気やけがで30日以上長期入院している児童生徒が6300人おり、その4割に当たる2520人が在籍校による学習指導が行われていないという実態が明らかになりました。平成27年度「秋田県の学校体育・学校健康教育資料」によると、県内では1676人いる長期欠席者（30日以上）のうち、病気やけがを理由とするものが329人で約2割を占めていることがわかります。

「病気について配慮が必要な子どもはさまざまなところにいる」、「病気を抱えている子どもたちに対して、教育は病気が治ってから受ければよいものではない」、「病気の時でも教育はできる」、「病気の時だからこそ行すべき教育がある」のです。多くの病気療養児への適切な学習支援や心のケアについては、通常の学級の担任の先生方を含めそれぞれの学校が責任をもって行わなければなりません。

設置校訪問を終えた今、病弱特別支援学級の一層の充実と共に、通常の学級に在籍する病気療養児への支援の充実が、最も重要な課題の一つであると考えています。



設置校訪問

学級担任と教科の指導について協議をしています。



昭和大学病院 院内学級を視察



赤鼻の先生こと、副島先生と情報交換をしています。

注目!

連載 きらりの授業 その⑥

中学部 1～3年生合同の
自立活動を主とした学習
グループです。

中学部 自立活動「見る聞く」

中学部の自立活動を主とした学習グループでは、1・2・3年合同で自立活動「見る聞く」の学習に取り組んでいます。物語を題材とした学習を通して、見る力、聞く力を高め、主体的に表現したり活動したりする力を育むことを目的として授業づくりをしています。今年度はこれまでに『風の又三郎』『ガンピーさんのドライブ』『ともだちや』など、5つの物語を取り上げました。

1時間の中で同じお話を2回繰り返し、1回目はじっくりと見たり聞いたりして感じた気持ちを表し、2回目は生徒たちも役割を演じてセリフの部分で発声したり、小道具を操作して効果音、動物の鳴き声を鳴らしたりしてお話を進めていきます。

視覚、聴覚に加えて、触覚、嗅覚にも働き掛けることができるように本物の果物や植物など、様々な種類の教材を使用することで、一人一人に、好きな場面で主体的な行動が見られるようになっていきます。



部屋を暗くし、ペープサートをライトアップすることで、注目する力が高まりました。



雨の場面で、触れたり音を聞いたりした教材は、観葉植物用のシリコン製のボールを使用しました。



2回目のお話では、好きなセリフの部分で発声したり、表情で気持ちを表したりする姿が見られました。

教育専門監のコーナー「豊かな認知を育む読み聞かせ」

《読み聞かせのもたらす学び》

【心の成長と情操教育】

絵本の読み聞かせは、聞いている子どものやる気や喜怒哀楽の感情、人の基本的行動を決める思考に働き掛けます。登場人物の心情に共感、同情することで、相手の気持ちを理解する力がつきます。

【考え方の視野が広がり、想像力も豊かになる】

絵本を通して、さまざまな世界、人種、職業、考え方を知り、心と視野を広げ、想像力も豊かになります。

【コミュニケーションに効果】

言葉だけでなく、身体を通して、発声や視線、表情、身振り、指差し、姿勢などさまざまな表現の仕方で関わり、子どもは身体まるごと絵本の世界に関わろうとしていきます。



子どもたちは、登場人物と一体となって絵本の世界を楽しみます。本という道具を媒介にして、物語の世界と向き合い、自分が登場人物とつながっているように感じながら、登場人物と同じ動作や口調をまねたり、身体を動かしたりして読み聞かせに参加します。

絵本の読み聞かせで一番大切なこと。それは「**子どもと同じ世界を共有できる**」こと。絵本の持つ世界観、そこから生まれる感情や互いのぬくもり。絵本は、子どもと一緒に様々な価値観を共有することができる**コミュニケーションの道具**といえます。子どもと一緒に絵本の世界を楽しむ「絵本の読み聞かせ」。日々の読み聞かせにより子どもたちの世界は広がり、成長しています。

文責：二階堂悟

秋田きらり支援学校に相談・見学の希望がありましたら、下記まで御連絡ください。

教頭 伊藤 敏博 地域支援部 佐藤 忠浩

住所：〒010-1407 秋田市上北手百崎字諏訪ノ沢3番127

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018(889)8573 FAX：018(889)8575

「きらりNet」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>

